



さとやま

1月に見られるいきもの



昨年の12月は、中旬に大きな寒波が襲来し、この地方でも雪がちらつくことがあり、この寒さで里も一気に冬模様になりました。

この時期は、花が少なく寂しい雰囲気ですが、いきものたちの中には、すでに春に向けて着々と準備を進めているものもあります。

1月下旬、左の写真のように、駐車場から見えるスギの木が、赤っぽく見えるのは、花芽を準備している印です。そろそろ花粉情報

が報じられるようになります。駐車場からピオトープの間にあるヤブツバキ、本番は2~3月ですが、今年は11月頃から花をつけ始めました。

里山エリアの杉林の道では、毎年少し気が早いウメ（白梅）がお正月前後から咲きだします。

ハンノキ広場のカワラハンノキは、秋からすでに長い花芽（雄花）が見られます。1月下旬ごろには、中央広場でマンサクのつぼみが膨らみ始めます。

万灯山エリアでは、やはり1月下旬ごろから、雌花より先に咲くアオキの雄花の花芽や、ヒサカキの花芽を見つけることができます。

万灯山山頂付近では、秋に発芽したフデリンドウが、ほかの植物が少ない時期に、冬の日差しを独占して着々とエネルギーを蓄えています。



スギ



ヤブツバキ



ウメ



カワラハンノキ



マンサク



アオキ



ヒサカキ



フデリンドウ

ピリッとする冬の空気の中、活動をはじめている生き物たちを探して、里を散策してみませんか。

里の生き物紹介

里の冬鳥

毎冬、多くのカモなどの水鳥でにぎやかになる小草池、今年は耐震工事のため水が抜かれ、残念ながら観察ができません。でも、冬鳥は、水鳥ではありません。里にやってくる陸の冬鳥をご紹介します。

ツグミ

里のあちこちで見られます。「クワッ、クワッ」「クイッ、クイッ」と鳴きながら、開けた田畑で虫などを探し、ちょこちょこ進んでは止まるという「だるまさんが転んだ」のような動きをします。

ハトより小さめで、外見から雌雄の区別はつきません。白い眉班、胸の黒斑で見分けられますが、淡色から黒が濃いものまで個体差が大きいようです。

春には「キョロロ、キョケッ」などとさかんに鳴くようになり、その後シベリアへ渡っていき、夏になると声が聞こえなくなる（口をつぐむ）ことから名が付いたと言われています。

かつては珍味として珍重され、カスミ網を使って獲られていました。現在は野鳥を獲ることは禁じられています。



シロハラ



ツグミと大きさや生態が似ていますが、日陰を好み、里での数は少ないようです。

秋になると、中国東北部やロシア沿岸地方からやってきます。

腹の部分が白いので名が付きました。飛ぶと、尾の先の白色が目立ちます。雄雌の区別ははっきりしませんが、よく見ると雌の方が顔や腹部が白っぽく、目の上に薄い眉班があります。

「シーッ」と細い声や、「コッコッコッ」とけたたましい声で鳴きます。

ジョウビタキ



チベットから中国東北部、バイカル湖周辺などから、やってきて越冬します。センターゾーンの各地で見られます。

スズメほどの大きさで、翼に白い斑点が紋付のようにあることで見分けられます。雄は、濃い橙色の体で頭が白く、目の下から翼が深い黒褐色のよく目立つ姿です。雌は頭から翼が淡褐色、体の橙色も薄く見分けやすいです。

木の枝などにとまり、お辞儀のような独特の仕草をします。虫や木の実などを食べますが、雄雌ともに縄張り意識が強く、いつも同じエリアに同じ個体があります。窓などに映った自分の姿に攻撃を加えることもあります。

ルリビタキ



ジョウビタキと同じくらいの大きさで、脇腹が黄色っぽく、雄は頭から背中や翼が青く、雌や若鳥は尾だけが青色で頭や翼は緑褐色です。オスは完全に青くなるまで3年ほどかかるようです。

夏は北海道、本州、四国の高山で繁殖して、冬は低い山地に移ります。里では、万灯山エリアの山道で、冬の初めは単独で木にとまっているものを見かけますが、春が近づくと、数羽で採食しているのを見ようになります。

冬鳥は繁殖期ではないので、里では美しい声で囀りません。ジョウビタキもルリビタキも、自転車のブレーキのような「キー、キー」という音と「カッ、カッ」という音を組み合わせた「地鳴き」をしますが、その「カッ、カッ」が火打石を打ち合わせる音に似ているため、「火焚き」の名がついたと言われています。

こんな、今の時期しか見られない鳥たちを探してみましよう。

12月の行事紹介



楽しいクリスマスを迎えるため、5日（日）に「自然の素材で“クリスマスリース”を作ろう」の講座を開催しました。

里山で好きな木の実などを採取し、クズのつるを丸めて土台を作り、その上にワイヤーをくくり付けて木の実をアクセントにグルーガンで接着させ、とても素敵なリースの完成です。自然を身近に感じた時間が過ごせ、心温まる素敵なクリスマスが迎えられると喜んでいました。

1月の行事予定

16日（日）	お花炭を焼いてみよう	20名	AM9:30～11:30	山口 信夫
30日（日）	自然に触れて俳キング	20名	AM9:30～11:30	服部くらら

※ 16日のお花炭を焼く金属製フタ付の缶（25 cm正方形・深さ 15 cm程度）のある方は、ご持参ください。そのまま持って帰られます。

2月の行事予定

19日（土）	竹炭焼きⅠ（竹きり・竹割り・窯入れ）	30名	AM9:00～11:00	神本 晃 & 河野俊治
20日（日）	竹炭焼きⅡ（火入れ）	30名	AM9:00～11:00	
27日（日）	竹炭焼きⅢ（窯出し）	30名	AM9:00～11:00	

※ 上記講座は原則3回講座のため、2回出席できた方に限り「竹炭」をプレゼントします。

- ◆参加受付は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順で来園、または電話にて受付します。また、お申込みは本人、もしくはそのご家族までとします。
- ◆参加申込者は傷害保険に加入のため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◆天候や少数（6名以下/1講座）、コロナ禍などにより「講座の中止・延期」、または「受講内容の変更」する場合があります。
- ◆原則、参加費は無料ですが材料費などは実費を申し受けます。
- ◆詳細な講座の内容などは、直接ネイチャーセンターにご確認ください。

西尾いきものふれあいの里

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28～1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課